



### ふれあいフェスタ開催しました！！

2016年9月3日(土)

大人51名、0~6歳の子も39名の参加がありました。  
他院で出産された方の参加もあり、ママ達の交流の場ともなりました。



### リハビリ科紹介-産科リハビリとは-

当院のリハビリテーション科は理学療法士50名、作業療法士24名、言語聴覚士16名の計87名で入院患者様のリハビリを行っています。当院の特色として、妊娠中の方に向けて、女性スタッフが産前・産後のリハビリを行っています。産前は、妊娠中期以降の妊婦さんに対してスムーズな出産に向けた呼吸法やストレッチをお伝えしています。産後は、出産でダメージを受けた身体に対してリラクゼーションや、お腹周りの筋力回復に向けて運動指導をしています。



### 【編集後記】

今回は当院の取り組みの中でも、特徴的なものを紹介させて頂きました。少しずつ部署紹介も織り交ぜながら、当院の事を少しでも知って頂けるように取り組んで参ります。

地域連携推進委員会 高橋 亮太

## 入院・退院支援体制を整えています

### ◆入退院支援とは

病気や怪我で途方にくれる中、これから先どうなるのか、どうやって暮らしていけばよいのか……この様な患者様とご家族の不安により添い、これからの可能性と整えるべき課題の整理、利用できる療養・介護支援策の提示と選択、そして選択された支援策の導入に向けての具体的な調整など、この一連の過程を担うのが入退院支援担当者です。

厚生労働省は、「患者が安心・納得して退院し、早期に住み慣れた地域で療養や生活を継続できるように」施設間の連携を進め、入退院支援を実施することを診療報酬として評価し推奨しています。

### ◆医療・介護の情勢

超高齢社会の到来、人口構造の変化、医療の機能分化が進む中で、医療・福祉を取り巻く環境は大きく変化してきました。病気や怪我などで入院することになっても、入院期間には制限があり、ひとつの病院で「治るまで」入院し続けることはできない時代になりました。救急・急性期医療に目処が立てば、次は衰えた機能を回復させるためのリハビリ専門病院へ移り、機能回復に目処が立てば自宅に戻る……とは言え、高齢者が元通りに回復することは難しく、新たに何らかの介護支援が必要となる状況は多々あります。入院を機に、自宅に帰ることが困難となり、生活の場を介護施設へ移さざるを得ないこともあります。



### ◆第二協立病院の入退院支援

第二協立病院では、地域医療連携室が中心となって、入退院支援の役割を担ってきました。本年4月からは更に体制を強化し、10名の社会福祉士と1名の入退院支援担当看護師を配置しています。医師、看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養士と連携を図りながら、ひとり一人の方々を支援しています。

入院、退院に関わる様々な不安や心配事など、遠慮なくご相談ください。

入退院支援看護師 西森 久江



リハビリを目的に入院される場合の流れ

## 【NST委員会の活動について】

NST(N: Nutrition S: Support T: Team)は医師・看護師・薬剤師・言語聴覚士・管理栄養士等で構成され、患者様の栄養状態の評価・検討・栄養管理の提案等を行います。



栄養管理は医療の基本であり、栄養障害は免疫力の低下や褥瘡・感染症等の合併症を引き起こします。



当院では昨年8月から月2回、NST回診を始めました。回診では、身長・体重・体脂肪量・筋肉量の身体計測を行い、患者様の病態・摂食嚥下機能・食事や輸液内容・食事摂取量などについてディスカッションし、栄養療法のプランを立てています。



また栄養状態の低下が一因で褥瘡を発症した患者様においても、褥瘡回診チームと連携を図り栄養状態を評価しサポートしています。

また栄養管理に興味を持つ、知識を増やすことを目的に月2回全職員を対象に勉強会を行っています。これからも患者様の生活の質の向上を目指し、第二協立病院NSTは積極的な栄養管理に取り組んでいきます。

NST委員会

## 秋祭り

9月30日に『第二協立病院 秋祭り』が行われました。

前日には、スタッフ総出で、水浸しになりながらヨーヨー300個を作り準備万端。

台風の襲来の中、最強の晴れ男か晴れ女が居るのか、お祭り当日は朝から太陽が覗いていて、ヨーヨーが無駄にならずに一安心。

お祭りは午後からで、新人スタッフが浴衣に着替え患者様をエスコート。普段と違った姿に、皆さん驚き。そんな中、患者様は屋台の綿菓子、ポップコーンやヨーヨーすくい、輪投げに夢中です。新人スタッフの炭坑節が始まり、雰囲気盛り上がり来たときに、お子ちゃま登場！協立病院保育所の4歳、5歳の園児たち15名がお遊戯を披露するために来てくれたのです。大きな声で、一生懸命お遊戯を披露してくれている園児たちを、皆さん、手拍子をしながら、温かい視線を注がれていました。お祭り終了時、患者様から「よかったよ」とスタッフに握手をしながら言われている姿が印象的でした。実行委員として、患者様に喜んで頂いた事に満足です。

最強の晴れ男と晴れ女に感謝。



患者サービス委員会

## インフルエンザ流行の季節です！！

寒さ厳しくなり感染症対策強化季節となりました。厚生労働省等から、インフルエンザをはじめとする感染症への注意喚起がなされています。

川西市でも徐々にインフルエンザ患者の報告が増えてきていますので、うがいや手洗いなどの感染症対策が必要です。

当院でも、職員へ個別の手指消毒剤を配布し、感染症予防に努めています。

